町立図書館 町史だより

西原のことば ～その⑤～

まつりのなかのことば（桃原）

夏はまつりの季節です～♪

町内では、今年も七月の綱ひきをピークに、旧盆の**エイサー**、**ジューグヤ**（十五夜）と続きます。

今回は、作物の実りを祈る**グングヮチ**（五月）**ウマチー**を紹介します。

グングヮチウマチーは、豊穣を感謝する**ルクグヮチ**（六月）**ウマチー**とともに、かつては琉球王国から任命された**ノロ**と呼ばれる神女がとり行っていましたが、現在ではその後継者もとだえ、各地域で静かに行われています。

桃原では六月十日、**ムラウグヮン**（ムラ御願）として自治会長を中心にグングヮチウマチーが行われました。

1 ニードゥクル（根所）

雨の降り続く午後五時半ごろ、桃原で最も古い家にあたる**ニードゥクル**（根所）の**ナーデーラー**（宮平家）へ向かい、**ヒヌカン**（火の神）、神棚に祈りを捧げます。

祈るときには、ムラの**ビンシー**（瓶子）を用います。

▲ナーデーラーの屋敷

▲ビンシー

ビンシー　近世期に考案された携帯用のウグヮン（御願）道具で、酒入れの対瓶、盃、花米、平線香などが朱色の木箱に入っており、各地域を巡拝するのに便利。ビンシーとは、もともと錫製や陶器でできた対瓶のことをさすことばで。

2 カーウビー（井戸拝み）

かつてのムラ跡と伝わる**トーバル**（桃原）シジに近い**ンブガー**（産井戸）を拝みます。次に、小字湧原にある**ワクガー**を拝み、同じ場所で、南西の山中にある井戸・**ウチュー**ガーに向かって**タンカー**（拝み〈遥拝〉）します。井戸を拝む**カーウビー**は、ルクグヮチウマチーにはなく、グングヮチウマチーに行われます。また、各家で祖先の地を礼拝する**カミウガミ**も、グングヮチウマチーだけに見られるといいます。

▲石灰岩づくりのワクガー

3 イシシーサー（石獅子）

次に、約百年前にトーバルシジのふもとに埋められ、平成八年に掘り出された一対の**イシシーサー**（石獅子）を拝みます。そのため、トーバルシジは**シーサーモーグヮー**とも呼ばれています。

もともと**ヤマゲーシ**（山の返し）として、呉屋から運玉森に向かって石製のシーサーが祀られていました。

▲雨の中イシシーサーを拝む

▲10年前に掘り出されたイシシーサー

運玉森のふもとにある桃原では、ひんぱんに火事が起こったため、呉屋のシーサーの返しとして、呉屋に向けイシシーサーを設置しました。しかし、たびたび盗難にあい地中に埋めてしまったというわけです。ユーモラスな顔に負けず、その由来も興味深いものがありますね。

イシシーサーの巡拝は、以前の記録にはみられませんが、今では新たなムラウグヮンの場所となっているようです。

ヤマゲーシ　運玉森の山の神への返しで、これをしないとシートラリーン（精気をとられる）といわれた。ケーシ（返し）は、厄を祓い返すという意。また、シーサーには災いをもたらす悪霊を追い払う魔よけの力があると信じられている。

4 トゥンとウタキ（殿と御嶽）

児童公園内にある**トゥン**（殿）を拝むと、ここでも、北側にある**サクマタキ**（佐久真の嶽）をタンカーします。トゥンは『琉球国由来記』（一七三三年）に記されている「真境名之殿」にあたりますが、今ではその名前を聞くことはなく、トゥン、または**トゥンモー**と呼ばれています。

まつり終了後も、ムラの有志の方々が熱心に桃原を語ってくださいました。

▲まつりを終えた桃原のみなさん

【参考文献】

『西原町史』第四巻・資料編三「西原の民俗」西原町史編纂委員会／『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社